



# CloudSystemテンプレート1st-Model オートスケーリングWebシステム 概要

※本書では「Exastro IT Automation」を「ITA」、「CloudSystemテンプレート1st-Model オートスケーリングWebシステム」を「CSテンプレート」として記載します。

# 目次

1. 施策概要
2. CSテンプレート実行例
  1. 環境の準備
  2. 【手順①】 パラメータの編集
  3. 【手順②】 システム構築の実行( = Stack作成)
  4. 出来上がったシステムを確認
3. 参考 - 通常はユーザが見ることはないメニュー -
4. 付録A - 出来上がったシステムのEC2にAnsibleを使って設定変更する -

# 施策概要

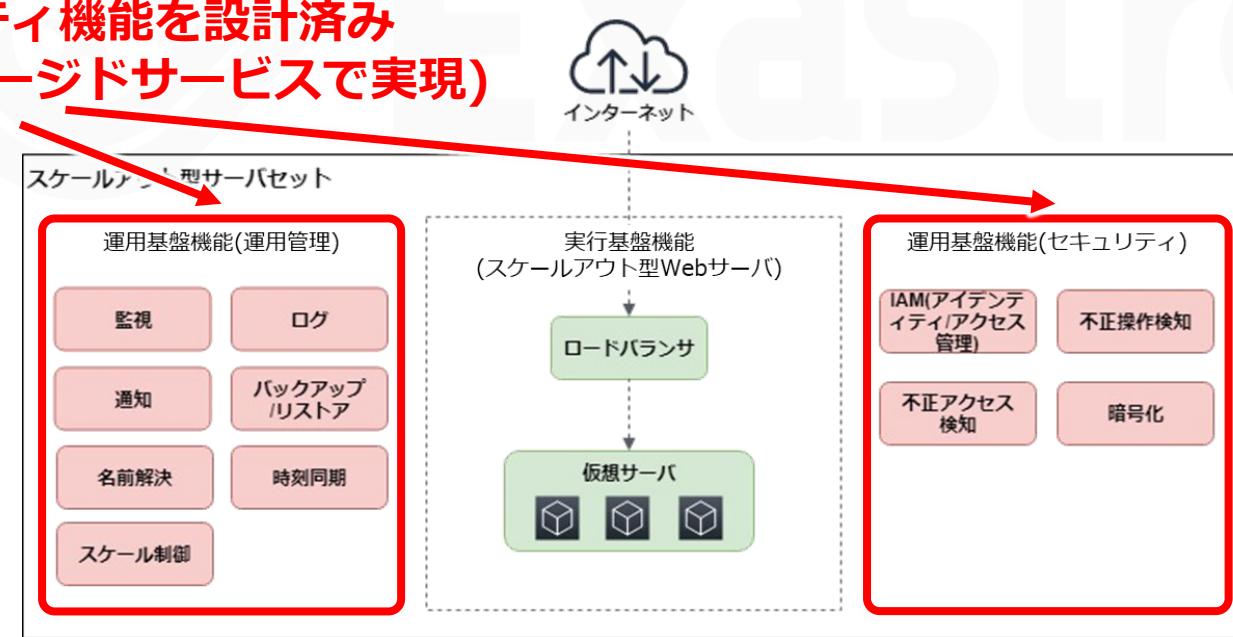


# CSテンプレートとは？

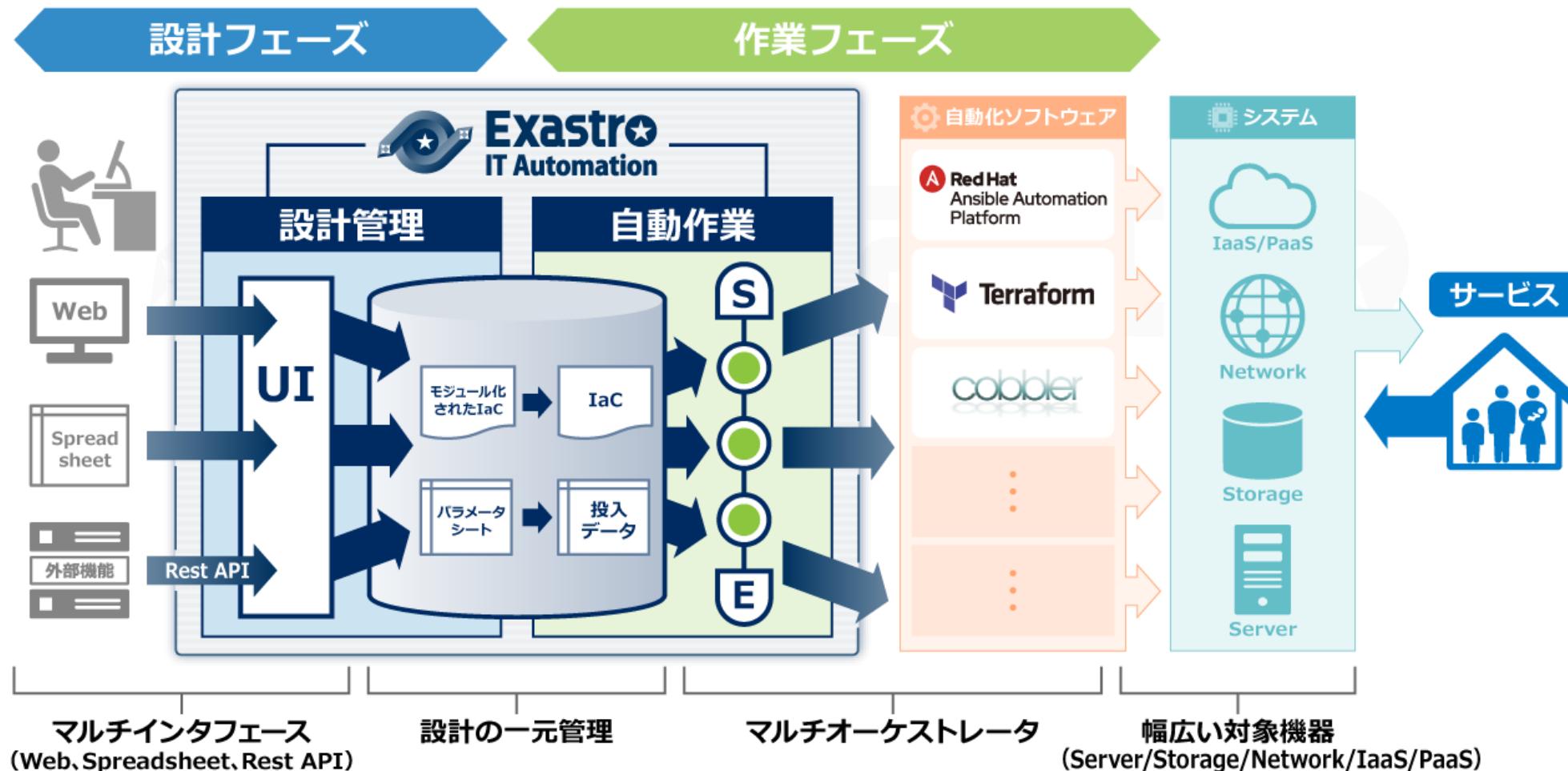
CSテンプレートは「**設計済みクラウドシステムモデルのIaC(Infrastructure as a Code)**」です  
運用管理やセキュリティなど運用上必須の機能が構築済みであることが特徴です

機能分類	概要
実行基盤機能	本テンプレートデモでは、ロードバランサ配下のスケールアウト型Webサーバを構成
運用基盤機能（運用管理）	監視、ログなど、プラットフォームの正常性を維持する機能群
運用基盤機能（セキュリティ）	アクセス制御など、プラットフォームのセキュリティを確保する機能群

**運用管理・セキュリティ機能を設計済み  
(サーバを使わずマネージドサービスで実現)**



## Exastro IT Automationは 「システム情報をデジタル管理するためのフレームワーク」です



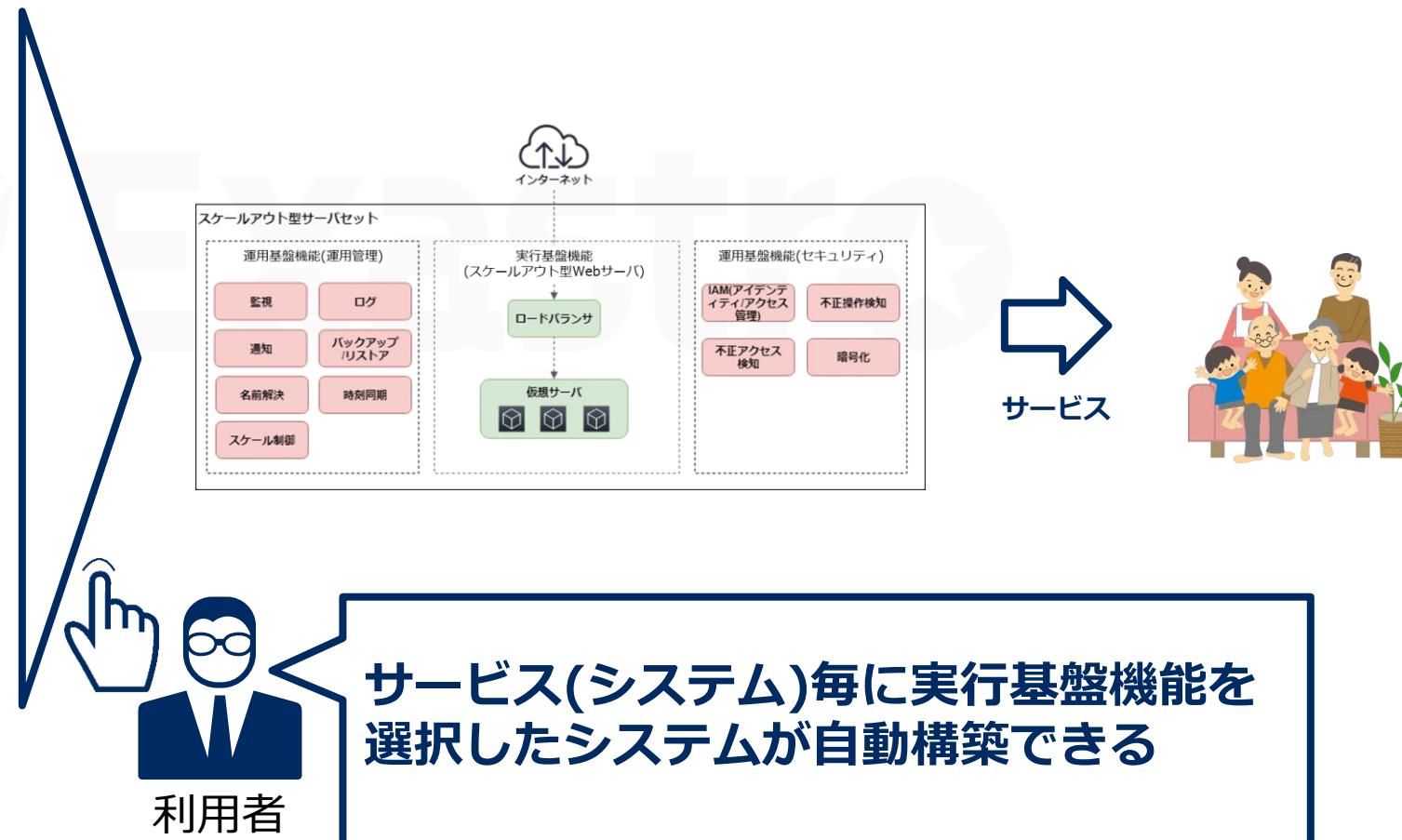
CS Template



**Exastro**  
IT Automation

# Exastroを活用したCSテンプレートの実行(1/3)

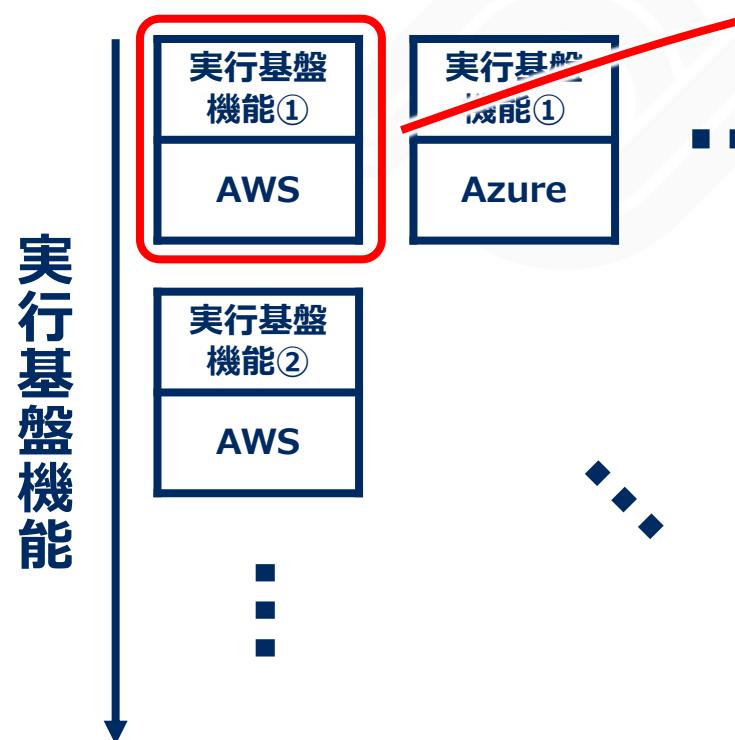
設計済みのCSテンプレートをただ提供するだけでなく、自動構築ツール  
"Exastro IT Automation"にCSテンプレートを取り込んだ状態で、  
パラメータ調整+実行の2アクションでシステムを提供することが可能です



CSテンプレートとExastroでの実行との関連イメージは下記の通りです。

## CSテンプレート施策の広がり

様々なクラウドへの適用



## Exastro ITAでの実行

Symphony

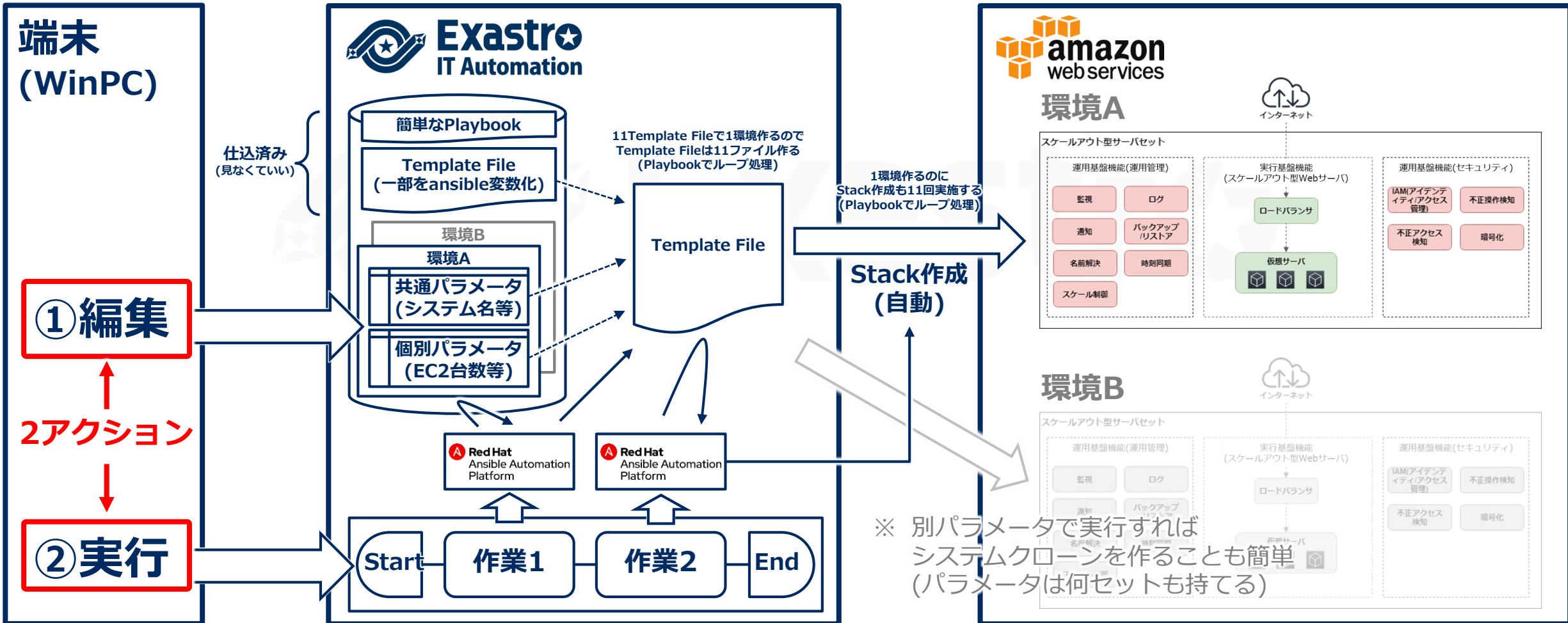


利用者



# Exastroを活用したCSテンプレートの実行(3/3)

Exastro IT AutomationにCSテンプレートを組み込むことにより、以下のような流れでAWS上の環境自動構築が実現可能です。



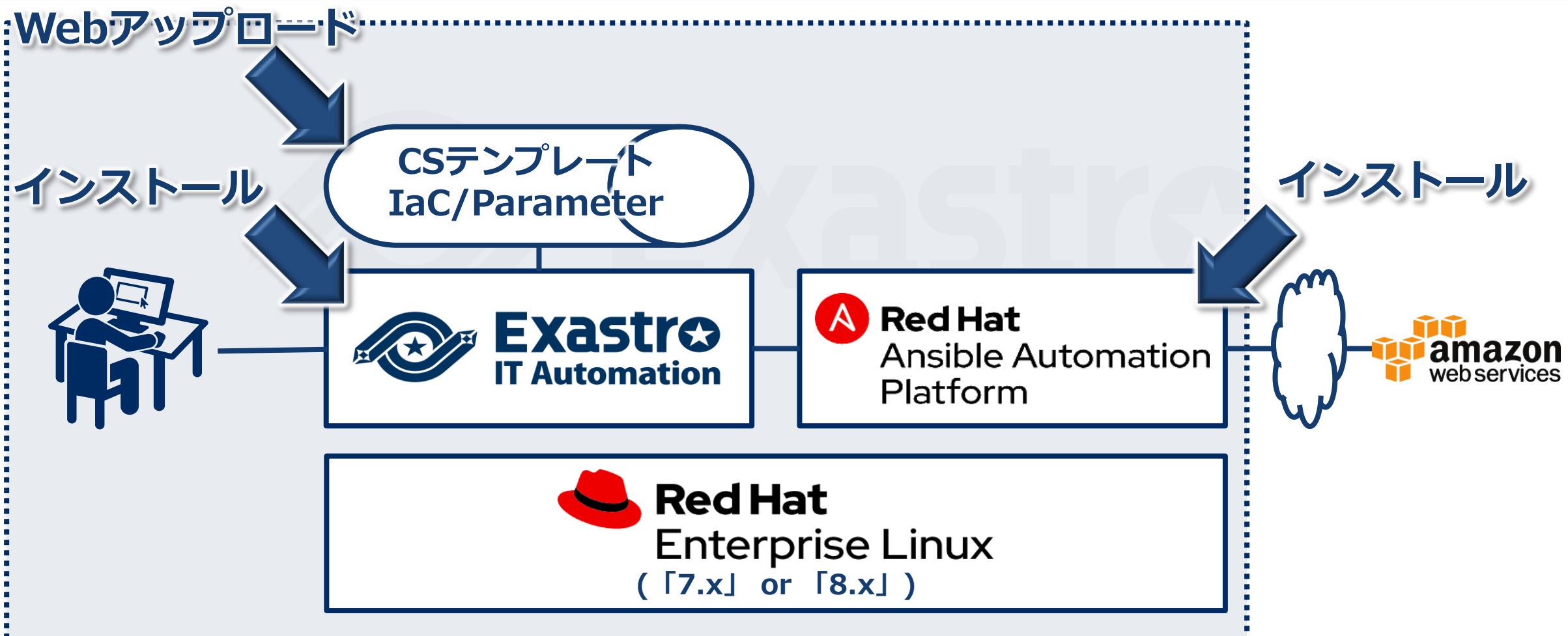
# CSテンプレート実行例 環境の準備



# 【CSテンプレート実行例】環境の準備

以下のような環境を準備します。

(詳細は「CloudSystemテンプレート導入手順書」の導入準備と導入作業を参照のこと。)



# CSテンプレート実行例

## 【手順①】 パラメータの編集



# 【手順①】 パラメータの編集 (1/3)

Exastro IT Automation パラメータ管理

ようこそ[インフラ管理者]さん  
ログインID [infra-admin]

パネル表示 : 中 パスワード変更 ログアウト

Menu

メインメニュー

共通パラメータ

AutoScaleパラメータ

S3パラメータ

SNSパラメータ

CloudTrailパラメータ

Networkパラメータ

SecurityGroupパラメータ

Bastionパラメータ

VPCflowlogsパラメータ

CloudWatchAlarmパラメータ

GuardDutyパラメータ

パラメータ管理

構築/更新シナリオ

削除シナリオ

ドキュメント管理

AWSアカウント管理

Teams連携管理

管理コンソール

基本コンソール

メニュー作成

ホストグループ管理

Ansible共通

Ansible-Legacy

マスタ管理

【参照用】パラメータ

【参照用】構築シナリオ

【参照用】削除シナリオ

代入値管理

【ホスト用】代入値

このパネルをクリックすると…

パラメータのリストが見えます

# 【手順①】 パラメータの編集 (2/3)

ようこそ[インフラ管理者]さん  
ログインID [infra-admin]  
[パスワード変更](#) [ログアウト](#)

Exastro IT Automation パラメータ管理

Menu

メインメニュー

共通パラメータ (選択)

AutoScaleパラメータ

S3パラメータ

SNSパラメータ

CloudTrailパラメータ

Networkパラメータ

SecurityGroupパラメータ

Bastionパラメータ

VPCflowlogsパラメータ

CloudWatchAlarmパラメータ

GuardDutyパラメータ

管理者に連絡

説明

表示フィルタ

一覧/更新

△閉じる

▽開く

▽開く

△閉じる

オペレーション

更新	廃止	No.	オペレーション名	基準日時	実施予定日時	最終実行日時	システム名	AWSリージョン	システム環境	システム概要タグ	システム所有者タグ	システム状態	最終更新日時	最終更新者
更新	廃止	1	環境A	2020/06/18 11:28	2020/05/28 11:00	2020/06/18 11:28	EnvA-DemoSystem	ap-northeast-1	Development	SI-Template	NEC	SPSI	2020/06/18 10:36:06	インフラ管理者
更新	廃止	2	環境B	2020/06/18 11:27	2020/06/01 12:00	2020/06/18 11:27	EnvB-DemoSystem	ap-northeast-1	Development	SI-Template	NEC	SPSI	2020/06/10 14:09:04	システム管理者

フィルタ結果件数: 2

Excel出力

「システム名」等の共通パラメータはここで指定します  
(複数環境のパラメータセットを管理できます)

登録

全件ダウンロードとファイルアップロード編集

変更履歴

# 【手順①】 パラメータの編集 (3/3)

Exastro IT Automation パラメータ管理 ようこそ[インフラ管理者]さん  
ログインID [infra-admin] パスワード変更 ログアウト

Menu

メインメニュー

共通パラメータ

AutoScaleパラメータ

S3パラメータ

SNSパラメータ

CloudTrailパラメータ

Networkパラメータ

SecurityGroupパラメータ

Bastionパラメータ

VPCflowlogsパラメータ

CloudWatchAlarmパラメータ

GuardDutyパラメータ

説明

表示フィルタ

一覧/更新

△閉じる

オペレーション

更新	廃止	No.	オペレーション名	基準日時	実施予定日時	最終実行日時	ヘルスチェックパス	ブロックデバイス	ブロックデバイスピリューム	AMI	最終更新日時	最終更新者
更新	廃止	1	環境A	2020/06/18 11:28	2020/05/28 11:00	2020/06/18 11:28	/index.html	/dev/xvda	8	ami-011facbea5ec0363b	2020/06/10 14:13:17	システム管理者
更新	廃止	2	環境B	2020/06/18 11:27	2020/06/01 12:00	2020/06/18 11:27	/index.html	/dev/xvda	8	ami-011facbea5ec0363b	2020/06/10 14:13:17	システム管理者

フィルタ結果件数: 2

Excel出力

個別パラメータはカテゴリ毎に作ってます  
例えば「オートスケールの最小/最大インスタンス数」  
などの設定値を編集できます。  
(複数環境のパラメータセットが管理できることは、  
どの個別パラメータも共通パラメータと同様です。)

登録

全件ダウンロード CSVファイルダウンロード 編集

変更履歴

管理者に連絡

# CSテンプレート実行例

## 【手順②】システム構築の実行( = Stack作成)

[補足]Stackとは....

システムで必要とするAWSリソースのかたまり。

CloudFormationではリソースをStackという単位で  
管理することで環境の生成・破棄をシンプルにしている。

Stackを作成することで、AWSサービスの構築・設定が  
行われる。

## 【手順②】システム構築の実行( = Stack作成) (1/4)

ようこそ[インフラ管理者]さん  
ログインID [infra-admin]  
パネル表示: 中 パスワード変更 ログアウト

Exastro IT Automation 基本コンソール

Menu

メインメニュー

機器一覧

投入オペレーション一覧

Symphonyクラスター一覧

Symphonyクラス編集

Symphony作業実行

Symphony作業確認

Symphony作業一覧

定期作業実行

パラメータ管理

構築/更新シナリオ

削除シナリオ

ドキュメント管理

AWSアカウント管理

Teams連携管理

管理コントローラ

基本コンソール

メニュー作成

ホストグループ

Ansible共通

Ansible-Legacy

マスタ管理

【参照用】パラメータ

【参照用】構築シナリオ

【参照用】削除シナリオ

代入値管理

【ホスト用】代入値

このパネルをクリックし…

「Symphony作業実行」クリック  
(SymphonyはExastro用語で「ジョブフロー」のことです)

## 【手順②】システム構築の実行( = Stack作成) (2/4)

The screenshot shows the Exastro basic console interface. On the left is a navigation sidebar with various menu items like '説明' (Explanation), 'スケジューリング' (Scheduling), and 'Symphony' (multiple sub-options). The main area displays a table of execution logs:

操作	タスク名	説明	実行日時	実行者
1	オートスケールWebサーバ (構築/更新)	オートスケールWebサーバを構築または更新を実行します。 AWS CloudFormationでStackが未作成の場合、構築処理が実行されます。 Stackが作成済みかつパラメータに変更がある場合、更新処理が実行されます。 ◆ロール名「インフラ管理者」が付与されたITAユーザーが実行。	2020/06/09 16:41:00	データポータビリティプロシージャ
2	2 オートスケールWebサーバ (構築/更新)	実行するPlaybookを変更する際はMovementを「現成し、「イメージファイルをWebサーバへ設定」と変えてください。	2020/06/09 16:41:31	データポータビリティプロシージャ
3	3 オートスケールWebサーバ (削除)	◆ロール名「インフラユーザー」が付与されたITAユーザーが実行。 オートスケールWebサーバを削除します。 S3バケットも削除対象。	2020/06/09 16:41:31	データポータビリティプロシージャ
4	4 GuardDuty (構築/更新)	◆ロール名「インフラ管理者」が付与されたITAユーザーが実行。 GuardDuty構築または更新を実行します。 AWS CloudFormationでStackが未作成の場合、構築処理が実行されます。 Stackが作成済みかつパラメータに変更がある場合、更新処理が実行されます。	2020/06/09 16:41:45	データポータビリティプロシージャ
5	5 GuardDuty (削除)	◆ロール名「インフラ管理者」が付与されたITAユーザーが実行。 構築されたGuardDutyを削除します。	2020/06/09 16:41:45	データポータビリティプロシージャ
6	6 AWS管理者 (構築/更新)	◆ロール名「インフラ管理者」が付与されたITAユーザーが実行。 AWSの管理者ユーザー、管理者グループの作成または更新を実行します。	2020/06/09 16:41:45	データポータビリティプロシージャ

A red box highlights the first row, and a red arrow points to the '操作' column of the second row, indicating the selected operation.

**Symphony(=ジョブフロー)を選択  
「オートスケールWebサーバ (構築/更新)」を選択**

At the bottom, another red box highlights the first item in a list of operations, and a red arrow points to the '操作' column of the second item, indicating the selected operation.

**Operation(=パラメータのセット)を選択  
例えば「環境A」を選択**

## 【手順②】システム構築の実行( = Stack作成) (3/4)

Menu

メインメニュー

機器一覧

投入オペレーション一覧

Symphonyクラス一覧

Symphonyクラス編集

**Symphony作業実行**

Symphony作業確認

Symphony作業一覧

定期作業実行

Symphony実行

説明 AutoScaleWebシステムを構築します。  
(対象: 運用基盤機能+実行基盤機能+デモ用のWebコンテンツ)

オペレーションID 17  
オペレーション名 商用環境A

start

テンプレ作成 / オートスケールWeb / 構築・更新

CF実行 / オートスケールWeb / 構築・更新

機器一覧を同期

Teams通知(オートスケールWeb)

end

実行

Template Fileの変数にパラメータの値を埋め込みます  
(Stack分ループします)

埋め込み済みのTemplate Fileを使ってStackを作成します  
(Stack分ループします)

Webサーバ(EC2)をディスカバリーし  
Exastro ITAの機器一覧に登録します

構築完了をSNS(Teams)で通知します

実行をクリック

## 【手順②】システム構築の実行( = Stack作成) (4/4)

# 正常終了すればシステム完成です

△閉じる

説明 オートスケールWebサーバを構築または更新を実行します。  
AWS CloudFormationでStackが未作成の場合、構築処理が実行されます。  
Stackが作成済みかつパラメータに変更がある場合、更新処理が実行されます。

SymphonyインスタンスID 322  
Symphonyクラス名 オートスケールWebサーバ (構築/更新)

▼ start

[1] ● テンプレ作成 / オートスケールWeb / 構築・更新  
DONE 開始日時 2020/06/18 16:16:03 終了日時 2020/06/18 16:16:21

[2] ● CF実行 / オートスケールWeb / 構築・更新  
RUNNING 開始日時 2020/06/18 16:16:24 終了日時

[3] ● 機器一覧を同期(インフラ管理者)  
[4] ● Teams通知(オートスケールWeb)

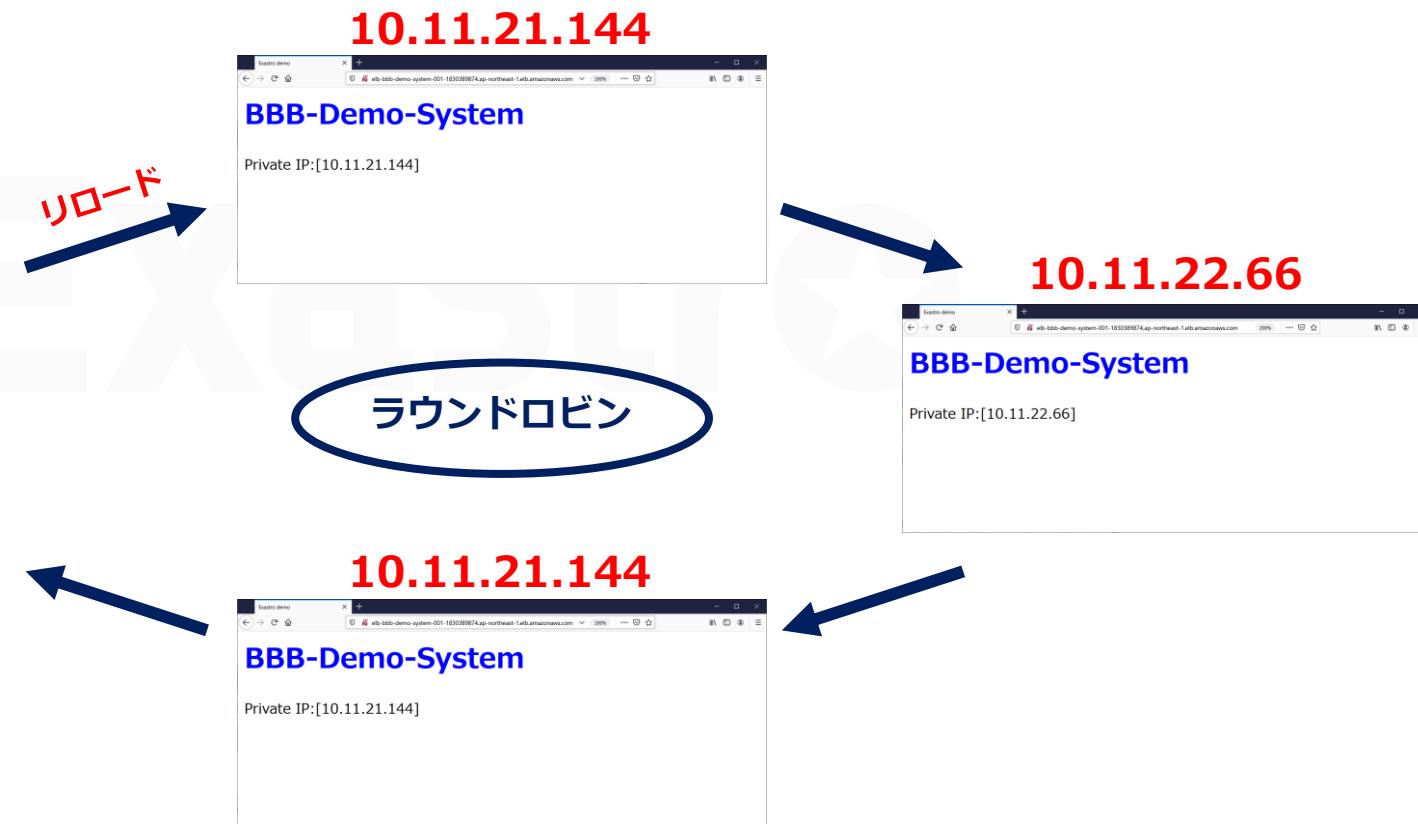
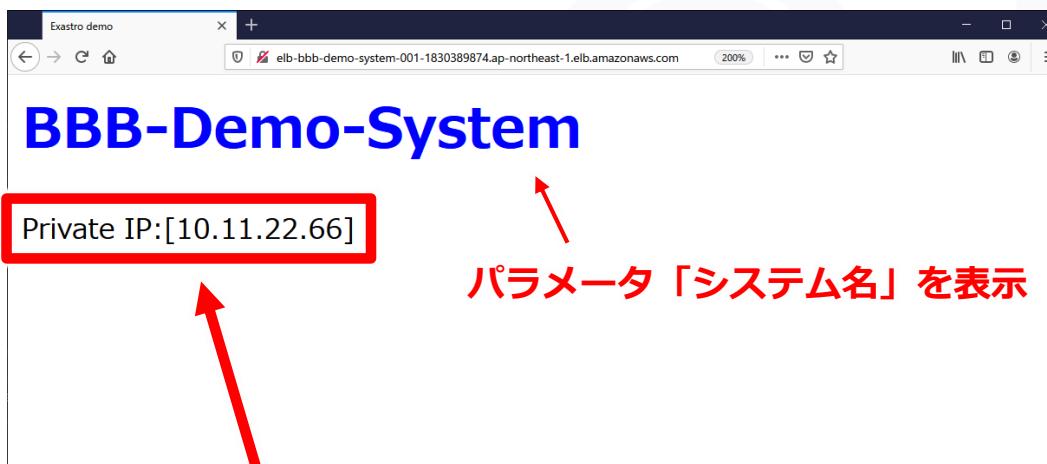
緊急停止

オペレーションID 1  
オペレーション名 環境A  
ステータス 実行中  
実行ユーザ インフラ管理者  
予約日時  
緊急停止命令 未発令

# 出来上がったシステムを確認

ブラウザでロードバランサにアクセスすると、下記の通り簡単なWeb画面が閲覧できます。  
(リロードするたびに、複数のWebサーバをラウンドロビンすることが確認できます。)

## ロードバランサへのアクセス結果画面





参考 - 通常はユーザが見ることはないメニュー -

# 参考 - 通常はユーザが見ることはないメニュー - (1/4)

The screenshot shows the Exastro IT Automation Document Management interface. The top navigation bar includes the Exastro logo, a user greeting (ようこそ[インフラ管理者]さん), login information (ログインID [infra-admin]), and links for password change and logout. The left sidebar has a 'Menu' section with 'メインメニュー', '基本設計', '詳細設計', '構築資料', and '評価資料'. The main content area has tabs for '説明', '表示フィルタ', and '一覧/更新'. A red box highlights a table listing five uploaded documents, each with '更新' and '廃止' buttons, a version number, and a file name. Below the table, a message states: 'CSテンプレートの設計書類もExastro IT Automationで管理可能です。ドキュメント管理に必要なドキュメントをアップロードします。' At the bottom, there are links for '登録', '全件ダウンロードとファイルアップロード編集', and '変更履歴'.

更新	廃止	No	バージョン	ファイルアップロード	備考	最終更新日時	最終更新者
更新	廃止	1	1.0	<a href="#">CloudFormation実装方式設計書.pptx</a>		2020/06/05 14:09:37	データポータビリティプロシージャ
更新	廃止	2	1.0	<a href="#">SIテンプレート機能設計書(スケールアウト型サーバ).xlsx</a>		2020/06/05 14:09:52	データポータビリティプロシージャ
更新	廃止	3	1.0	<a href="#">SIテンプレート機能設計書(共通設計).xlsx</a>		2020/06/05 14:10:04	データポータビリティプロシージャ
更新	廃止	4	1.0	<a href="#">SIテンプレート機能設計書(付帯機能_セキュリティ).xlsx</a>		2020/06/05 14:10:23	データポータビリティプロシージャ
更新	廃止	5	1.0	<a href="#">SIテンプレート機能設計書(付帯機能_運用管理).xlsx</a>		2020/06/05 14:11:01	データポータビリティプロシージャ

フィルタ結果件数: 5

CSテンプレートの設計書類もExastro IT Automationで管理可能です。  
ドキュメント管理に必要なドキュメントをアップロードします。

Excel出力

登録

全件ダウンロードとファイルアップロード編集

変更履歴

管理者に連絡

## 参考 - 通常はユーザが見ることはないメニュー - (2/4)

The screenshot shows the Exastro IT Automation web interface. The top navigation bar includes the Exastro logo, a user greeting (ようこそ[インフラ管理者]さん), login information (ログインID [infra-admin]), and links for 'Password Change' and 'Logout'. The left sidebar has a 'Menu' section with 'Main Menu' and 'Auto Scale Web Server' (which is highlighted with a red box). The main content area is titled 'Scenario/Update Scenario' and contains three tabs: 'Explanation', 'Display Filter' (which is also highlighted with a red box), and 'List/Update'. Below these tabs is a table showing the relationship between operations and stacks. The table has columns for 'Operation' (list of 11 environment A entries) and 'Parameter Mapping' (list of 11 stack entries). A red box highlights the 'Parameter Mapping' table.

No	オペレーション名	基準日時	実施予定日時	最終実行日時	代入順序	スタック名	テンプレートファイル	対象	リ	最終更新日時	最終更新者
1	環境A	2020/06/18 16:16	2020/05/28 11:00	2020/06/18 16:16	1	IAM-Role	"{{ TPF_IAM_ROLE }}"	●		2020/06/05 09:58:09	データポータビリティプロシージャ
2	環境A	2020/06/18 16:16	2020/05/28 11:00	2020/06/18 16:16	2	KMS	"{{ TPF_Security_KMS }}"	●		2020/06/05 09:58:09	データポータビリティプロシージャ
3	環境A	2020/06/18 16:16	2020/05/28 11:00	2020/06/18 16:16	3	S3	"{{ TPF_Storage_S3 }}"	●	2	2020/06/08 18:28:04	データポータビリティプロシージャ
4	環境A	2020/06/18 16:16	2020/05/28 11:00	2020/06/18 16:16	4	SNS	"{{ TPF_AppIntegration_SNS }}"	●		2020/06/05 09:58:09	データポータビリティプロシージャ
5	環境A	2020/06/18 16:16	2020/05/28 11:00	2020/06/18 16:16	5	CloudTrail	"{{ TPF_Management_CloudTrail }}"	●		2020/06/05 09:58:09	データポータビリティプロシージャ
6	環境A	2020/06/18 16:16	2020/05/28 11:00	2020/06/18 16:16	6	Network	"{{ TPF_Network }}"	●		2020/06/05 09:58:09	データポータビリティプロシージャ
7	環境A	2020/06/18 16:16	2020/05/28 11:00	2020/06/18 16:16	7	SecurityGroup	"{{ TPF_SecurityGroup }}"	●		2020/06/05 09:58:09	データポータビリティプロシージャ
8	環境A	2020/06/18 16:16	2020/05/28 11:00	2020/06/18 16:16	8	Bastion	"{{ TPF_Bastion }}"	●		2020/06/05 09:58:09	データポータビリティプロシージャ
9	環境A	2020/06/18 16:16	2020/05/28 11:00	2020/06/18 16:16	9	AutoScaleServer	"{{ TPF_AutoScale }}"	●		2020/06/05 09:58:09	データポータビリティプロシージャ
10	環境A	2020/06/18 16:16	2020/05/28 11:00	2020/06/18 16:16	10	VPCflowlog	"{{ TPF_Management_VPCflowlog }}"	●		2020/06/05 09:58:09	データポータビリティプロシージャ
11	環境A	2020/06/18 16:16	2020/05/28 11:00	2020/06/18 16:16	11	CloudWatchAlarm	"{{ TPF_Management_CloudWatchAlarm }}"	●		2020/06/05 09:58:09	データポータビリティプロシージャ

フィルタ結果件数: 11

Excel出力

### シナリオ毎に使うスタック(=Template File)を紐づけます

- ※ 例えば「オートスケールWebサーバ」では11本のスタックを紐づけています。
- ※ 構築対象に「●」を付けているものが構築されます。
- 「●」をメンテナンスすることでスタックを選択できます。
- ※ スタック単位にリトライ回数の設定も可能です。

# 参考 - 通常はユーザが見ることはないメニュー - (3/4)

Exastro IT Automation Ansible共通 ようこそ[インフラ管理者]さん ログインID [infra-admin] パスワード変更 ログアウト

☰ Menu

メインメニュー グローバル変数管理 ファイル管理 テンプレート管理

説明 表示フィルタ 一覧/更新

更新 廃止 素材ID: 1 TPF\_AutoScale テンプレート埋込変数名: [SiTemplate\\_AutoScale.yaml](#)

更新 廃止 2 TPF\_Security\_KMS テンプレート埋込変数名: [SiTemplate\\_Security\\_KMS.yaml](#)

更新 廃止 3 TPF\_Storage\_S3 テンプレート埋込変数名: [SiTemplate\\_Storage\\_S3.j2](#)

管理者に連絡

Ansible変数化した「Template File」はここで管理

87  
88  
89 # 2.ElasticLoadBalancing  
90 ##  
91 # 2-1.ElasticLoadBalancing  
92 # ElasticLoadBalancing1:  
93 Type: 'AWS::ElasticLoadBalancingV2::LoadBalancer'  
94 Properties:  
95 - IpAddressType: ipv4  
96 - LoadBalancerAttributes:  
97 - Key: access\_logs.s3.enabled  
98 - Value: true  
99 - Key: access\_logs.s3.bucket  
100 - Value:  
101 Fn::ImportValue: !Sub \${SystemName}-S3BucketNameAlbLog  
102 - Key: access\_logs.s3.prefix  
103 - Value: !Ref AlbLogPrefix1  
104 - Key: deletion\_protection.enabled  
105 - Value: false  
106 - Key: idle\_timeout.timeout\_seconds  
107 - Value: 60  
108 - Key: routing.http2.enabled  
109 - Value: true  
110 Name: !Sub "elb-\${SystemName}-001"  
111 Scheme: internet-facing  
112 SecurityGroups:  
113 - Fn::ImportValue: !Sub \${SystemName}-ELBSecurityGroup  
114 Subnets:  
115 - Fn::ImportValue: !Sub \${SystemName}-SubnetIdPublic1  
116 - Fn::ImportValue: !Sub \${SystemName}-SubnetIdPublic2  
117 #- Fn::ImportValue: !Sub sub-\${SystemName}-public-001  
118 #- Fn::ImportValue: !Sub sub-\${SystemName}-public-002  
119 Tags:  
120 - Key: Name  
121 - Value: !Sub "elb-\${SystemName}-001"  
122 - Key: Environment  
123 - Value: !Sub "\${Environment}"  
124 - Key: Application  
125 - Value: !Sub "\${Application}"  
126 - Key: Owner  
127 - Value: !Sub "\${Owner}"  
128 - Key: Department  
129 - Value: !Sub "\${Department}"  
130 - Key: CostCenter  
131 - Value: !Sub "\${CostCenter}"  
132  
133  
134  
135  
136 # 2-2.Listener  
137

△開く △開く △閉じる

# 参考 - 通常はユーザが見ることはないメニュー - (4/4)

Exastro IT Automation Ansible-Legacy ようこそ[インフラ管理者]さん  
ログインID [infra-admin] パスワード変更 ログアウト

説明

表示フィルタ

一覧/更新

更新 廃止 素材ID  
1 テンプレートファイルの作成 CFn\_templates.yaml  
2 Cloudformation実行(構築／更新) CFn\_module.yaml  
3 Cloudformation実行(削除) CFn\_module\_delete.yaml  
4 起動時コマンドの設定 set\_user\_data.yaml  
5 ELBホスト名取得 elb\_dnsname.yaml  
6 IAM-Role作成 CFn\_Iam\_Role.yaml  
7 IAMユーザー作成 CFn\_Iam\_User.yaml  
8 構築用ファイルを作成 action\_file\_create.yaml  
9 削除用ファイルを作成 action\_file\_delete.yaml  
10 密密鍵を作業用ディレクトリに展開 set\_secret\_key.yaml  
11 一覧を初期化 device\_list\_sync.yaml  
12 ファイルを送信 send\_imagefile.yaml  
13 バケットの削除 delete\_S3\_bucket.yaml  
14 チームメッセージを送信 send\_teams\_message.yaml

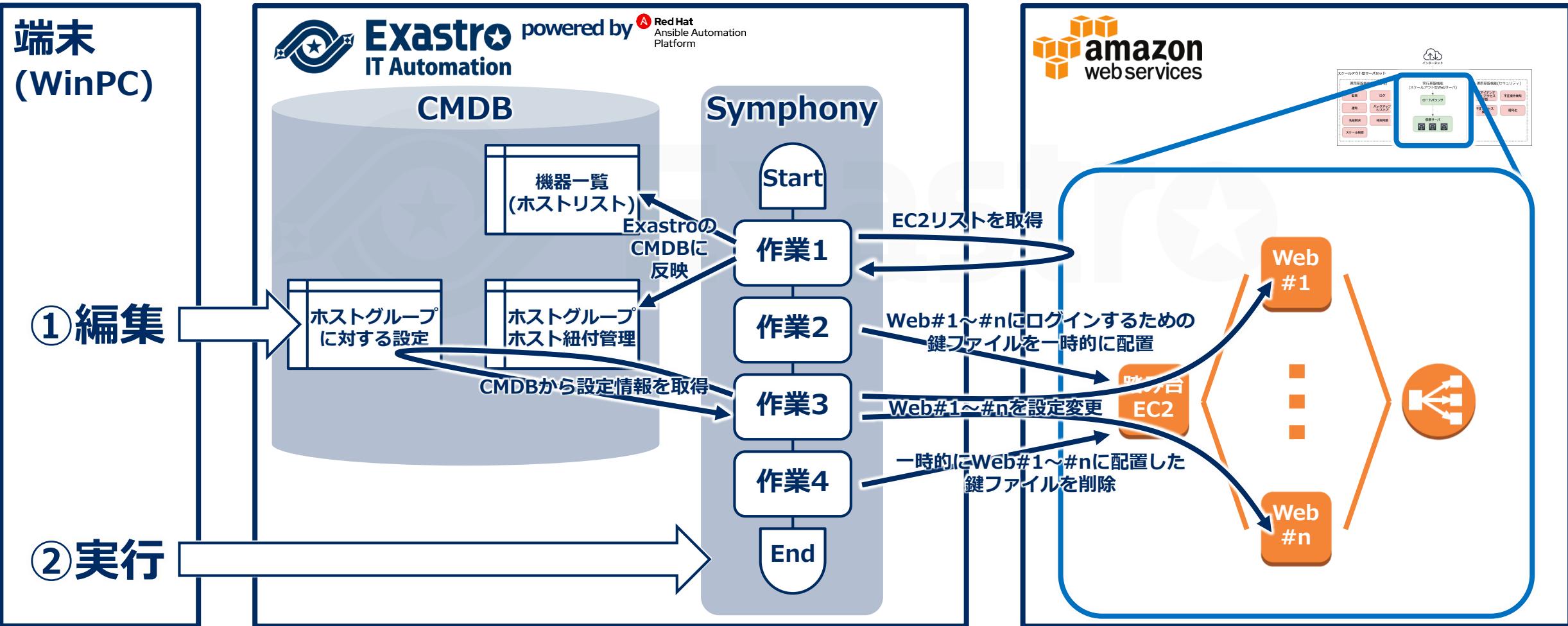
使用している  
「Ansible Playbook」  
はここで管理  
※単純なPlaybookで  
実現できています

1  
2 name: Create\_Templatefile  
3 template: src="{{ item.1 }}" dest="{{ \_\_symphony\_workflowdir\_\_ }}/{{ item.0 }}.yaml"  
4 when: item.2 == '●'  
5 with\_together:  
6 - "[[ VAR\_STACKNAME ]]"  
7 - "[[ VAR\_TPFFILE ]]"  
8 - "[[ VAR\_EXE\_FLAG ]]"  
EOF  
1 state: present  
2 template: "[[ \_\_symphony\_workflowdir\_\_ }}/{{ item.0 }}.yaml"  
3 template\_parameters:  
4 UpdateDate: "[[ lookup('pipe','date +%Y%m%d%H%M') ]]"  
5 role\_arn: "arn:aws:iam::{{ VAR\_accountId }}:role/CloudFormationRole"  
6 validate\_certs: no  
7 when: item.1 == '●'  
8 with\_together:  
9 - "[[ VAR\_stackName ]]"  
10 - "[[ VAR\_EXE\_FLAG ]]"  
11 environment:  
12 AWS\_ACCESS\_KEY\_ID: "{{ VAR\_ACCESS\_KEY }}"  
13 AWS\_SECRET\_ACCESS\_KEY: "{{ VAR\_SECRET\_ACCESS\_KEY }}"  
14 AWS\_DEFAULT\_REGION: "{{ VAR\_REGION }}"  
15 EOF



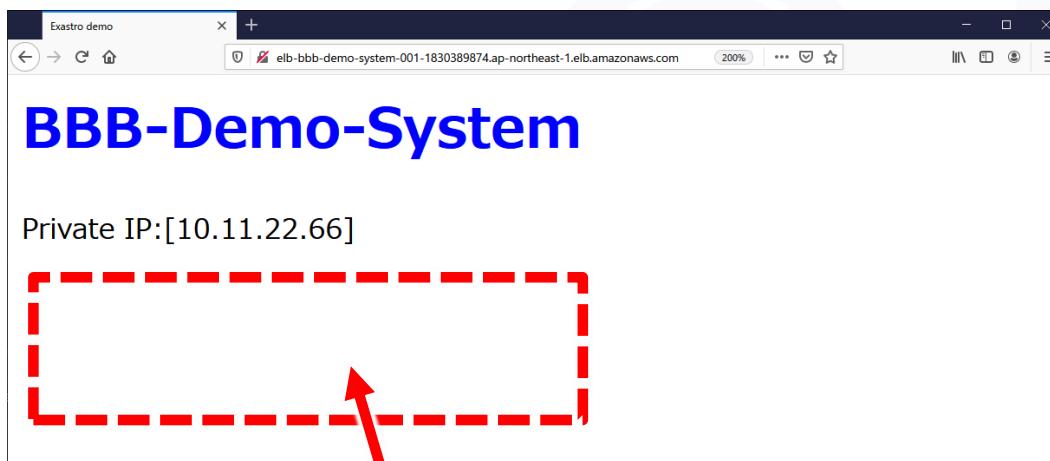
## 付録A - 出来上がったシステムのEC2にAnsibleを使って設定変更する -

## 稼働中のEC2(オートスケール)に緊急でパッチ適用するケースなどにおいて Exastro ITA + Red Hat Ansible Automation Platformを活用頂けます

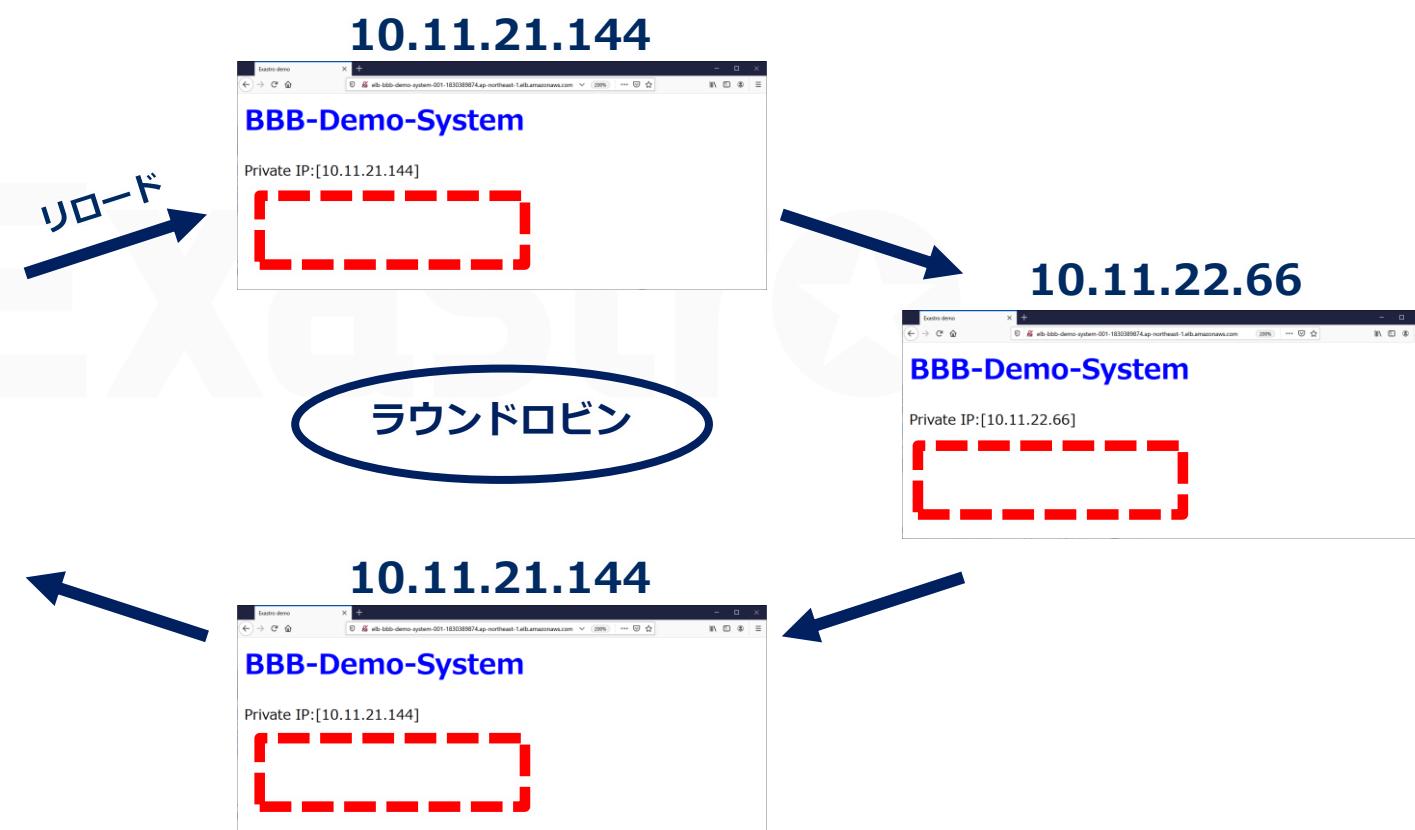


オートスケール対象の複数台のEC2に対してWeb画面に画像(※)を挿入します。  
※ EC2に対するパッチ適用に見立ててご理解ください。

## ロードバランサへのアクセス結果画面



画像が無い状態  
(パッチ適用前と考えてください)



# 付録A - 出来上がったシステムのEC2にAnsibleを使って設定変更する - (3/6)

Exastro IT Automation Ansible共通 ようこそ[インフラ管理者]さん  
ログインID [infra-admin] パスワード変更 ログアウト

☰ Menu ▽開く  
メインメニュー  
グローバル変数管理  
ファイル管理

テンプレート管理 △閉じる

説明  
表示フィルタ  
一覧/更新

更新	廃止	素材ID	ファイル埋込変数名	ファイル素材	備考	最終更新日時	最終更新者
更新	廃止	1	CPF_STARTUP	<a href="#">ec2_userdata</a>	WEBサーバの起動時設定	2020/05/28 09:17:47	データポータビリティプロシージャ
更新	廃止	2	CPF_SECRET_KEY_BASTION	<a href="#">si-template-omcs.pem</a>	踏み台サーバの秘密鍵	2020/06/10 14:14:30	システム管理者
更新	廃止	3	CPF_SECRET_KEY_WEB	<a href="#">si-template-omcs.pem</a>	WEBサーバの秘密鍵	2020/06/10 14:14:43	システム管理者
更新	廃止	4	CPF_IMAGEFILE	<a href="#">Exastro-ITA-logo1-rgb.png</a>	Webサーバ表示用画像	2020/06/18 09:16:11	システム管理者
更新	廃止	5	CPF_AWS_SDK	<a href="#">aws_sdk.zip</a>	AWS SDK for PHP	2020/05/28 09:19:11	データポータビリティプロシージャ
更新	廃止	6	CPF_DEVICE_LIST_SYNC	<a href="#">device_list_sync</a>	機器一覧同期モジュール	2020/06/08 12:04:19	データポータビリティプロシージャ
更新	廃止	7	CPF_IMAGEFILE	<a href="#">super-tower.jpg</a>	デモ表示用画像		

フィルタ結果件数: 6

Excel出力

登録

全件ダウンロードとファイルアップロード編集

変更履歴

※\*は必須項目です。

挿入したい画像をアップロード  
(パッチデータをアップロードするイメージ)

素材ID ファイル埋込変数名\* ファイル素材\* 備考 最終更新日時 最終更新者

7 CPF\_IMAGEFILE 現在アップロードされているファイル:  
[super-tower.jpg](#)  
ファイルを選択 選択されていません  
事前アップロード  
アップロード状況:

戻る 更新

# 付録A - 出来上がったシステムのEC2にAnsibleを使って設定変更する - (4/6)

The screenshot shows the Exastro basic console interface. On the left, there's a sidebar with various menu items like 'Menu', 'メインメニュー', '機器一覧', '投入オペレーション一覧', 'Symphonyクラスター一覧', 'Symphonyクラス編集', 'Symphony作業実行', 'Symphony作業確認', 'Symphony作業一覧', and '定期作業実行'. The main area displays a table titled 'Symphony' with columns: 選択 (checkbox), SymphonyクラスID, Symphony名稱, 説明 (Description), 備考 (Remarks), 最終更新日時 (Last Update Date), and 最終更新者 (Last Updated By). There are six entries:

- 1 オートスケールWebサーバ (構築/更新) - Description: オートスケールWebサーバを構築または更新を実行します。Remarks: AWS CloudFormationでスタックが未作成の場合、構築処理が実行されます。スタックが作成済みかつパラメータに変更がある場合、更新処理が実行されます。
- 2 オートスケールWebサーバ (EC2へPlaybook実行) - Description: オートスケールWebサーバのEC2インスタンスに対してPlaybookを実行します。Remarks: 実行するPlaybookを変更する際はMovementを新規作成し、「イメージファイルをWebサーバへ設定」と変更してください。◆ロール名「インフラユーザー」が付与されたITAユーザーが実行。
- 3 GuardDuty (構築/更新) - Description: GuardDuty構築または更新を実行します。Remarks: AWS CloudFormationでスタックが未作成の場合、構築処理が実行されます。スタックが作成済みかつパラメータに変更がある場合、更新処理が実行されます。
- 4 GuardDuty (削除) - Description: GuardDuty削除を実行します。Remarks: ◆ロール名「インフラ管理者」が付与されたITAユーザーが実行。
- 5 AWS管理者 (構築/更新) - Description: AWS管理者構築または更新を実行します。Remarks: ◆ロール名「インフラ管理者」が付与されたITAユーザーが実行。
- 6 AWS管理者 (削除) - Description: AWS管理者削除を実行します。Remarks: ◆ロール名「インフラ管理者」が付与されたITAユーザーが実行。

A red box highlights the second entry, '2 オートスケールWebサーバ (EC2へPlaybook実行)'. A red arrow points from this entry to the text 'Symphony(=ジョブフロー)を選択' and '「オートスケールWebサーバ (EC2へPlaybook実行)」を選択'.

At the bottom of the main table area, it says 'フィルタ結果件数: 10'.

Below the main table, there are two more sections: 'オペレーション[フィルタ]' and 'オペレーション[一覧]'. The first section has a red box around its checkbox. A red arrow points from this section to the text 'Operation(=パラメータのセット)を選択' and '例えば「環境A」を選択'.

At the very bottom left, there's a small orange button labeled '管理者に連絡'.

Operation(=パラメータのセット)を選択  
例えば「環境A」を選択

## 正常終了すればEC2への設定変更が完了です

Symphony作業確認

△閉じる

Menu

- メインメニュー
- 機器一覧
- 投入オペレーション一覧
- Symphonyクラス一覧
- Symphonyクラス編集
- Symphony作業実行
- Symphony作業確認**
- Symphony作業一覧
- 定期作業実行

SymphonyインスタンスID 324

説明 オートスケールWebサーバのEC2インスタンスに対してPlaybookを実行します。  
実行するPlaybookを変更する際はMovementを新規作成し、「イメージファイルをWebサーバへ設定」と変更してください。

オペレーションID 1

オペレーション名 環境A

ステータス 正常終了  
実行ユーザ インフラ管理者  
予約日時  
緊急停止命令 未発令

▼ start

[1] 機器一覧を同期(インフラユーザー)  
DONE 開始日時 2020/06/18 16:46:29  
終了日時 2020/06/18 16:46:41

[2] 密钥鍵を作業用ディレクトリへ展開  
DONE 開始日時 2020/06/18 16:46:44  
終了日時 2020/06/18 16:46:54

[3] イメージファイルをWebサーバへ設定  
DONE 開始日時 2020/06/18 16:46:57  
終了日時 2020/06/18 16:47:09

[4] 作業用ディレクトリから密钥鍵を削除  
DONE 開始日時 2020/06/18 16:47:12  
終了日時 2020/06/18 16:47:18

緊急停止

管理者に連絡

Exastro

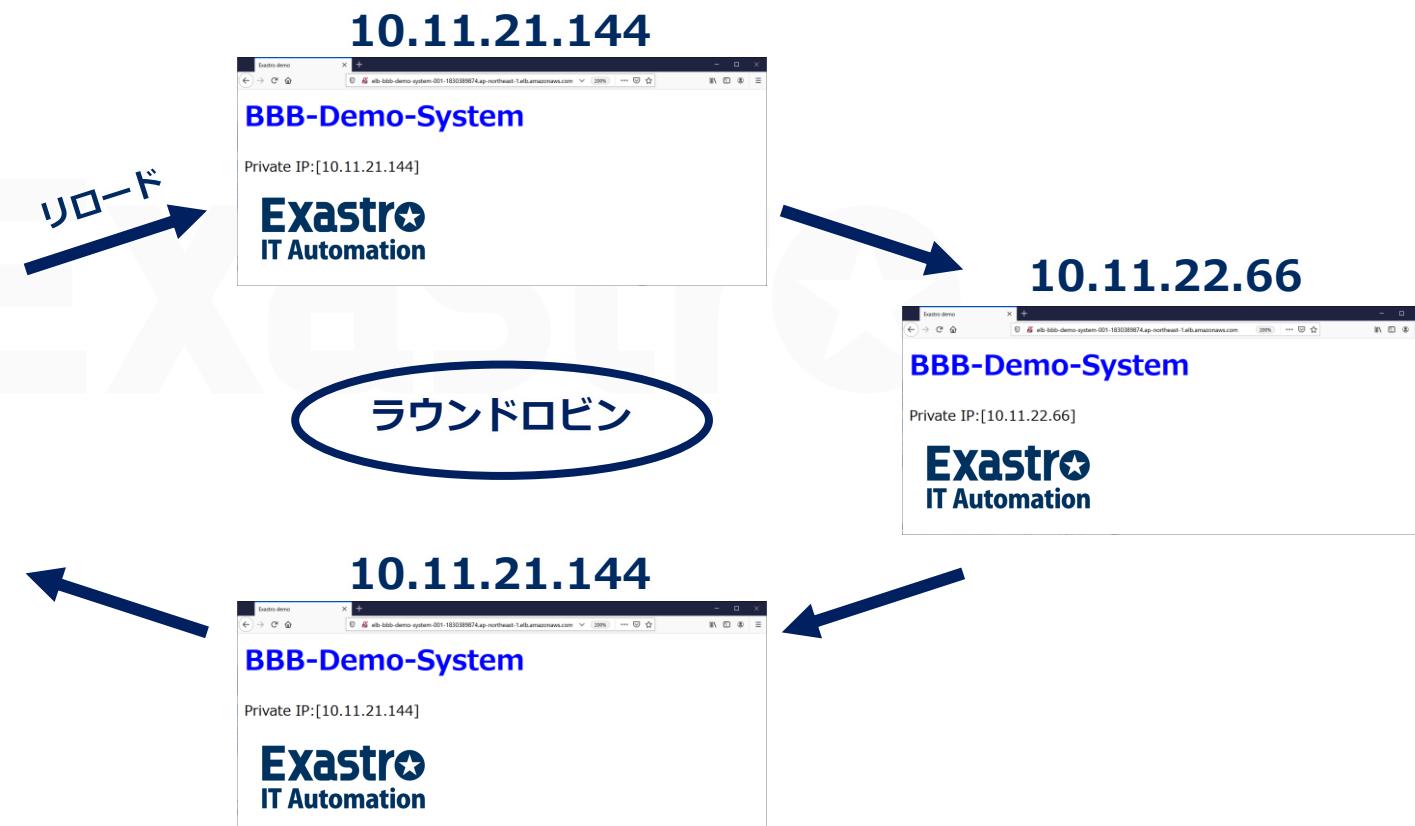
32

オートスケール対象の複数台のEC2に画像が挿入されます。  
(パッチが適用されたとお考え下さい)

ロードバランサへのアクセス結果画面



全てのEC2に画像が挿入されます  
(パッチが適用されたと考えてください)





**Exastro** 